

2.7.JOC「女性スポーツ委員会」への期待・要望

1	それぞれの競技団体での女性の活躍は目覚ましい、優秀な人材が輩出されている、にもかかわらず、その水面下で支えている女性役員の存在は少数の為か、余りマスコミなどにも取り上げられていないとはいいたい。何故なのかを問うことも大切。「女性スポーツ委員会」が設置されたとのこと、女性の役割は何かをしっかりと見つめて、育成に取り組んでいく方針を出してほしい。組織の中に女性が1/3以上居ることがボランティア活動の原動力になると考える。この問題も各競技団体の実状を把握していくことも重要であろう。
2	平成14年5月より女子競技者の公認と競技会実施を開始した。競技人口は500~700人位と推測されるが、これからかなり増加することが予想される。女性指導者、審判員はまだ極めて少ないので、競技会等の実施は男性の役員、審判員のみによって行わざるをえない。当連盟としても、いろいろ配慮しているつもりではあるが、女子のスポーツ競技実施や指導者に関する情報提供していただけることを期待したい。
3	男性オブザーバーは認めるが、経営、会計(経理)等にすぐれたメンバーを選び、スポーツ医学、プレス関係、法律に詳しい方に参加してもらいたい。
4	1.人口の半分は女性であるのに、生理的、肉体的な性別間の差異を踏まえた社会構造が出来上がっていない。例えばトイレについても、混雑時の高速道路サービスエリアの女性用トイレは、何処もかしこも長蛇の列で、本当に気の毒と思う。これは日本道路公団の設計者に、男女間のトイレ使用条件の差異を認識し、設計に具体案を反映させる能力がないからである。 2.女性の参画を考えた場合、上記の例の如く、これまでの日本国では、男性が全ての分野で優位にあり、「男性の考える女性への思いやり」で物ごとが決まってきた。委員会では、「もっと女性自身が、男性にわかる言葉で、女性が困っていること、欲していることを語る」委員会を作るべきである。 3.女性の社会進出を阻むものは、家内 育児 家事というこれまでの通念をどうしたら改革できるかにかかっている。結婚して家庭を持ったなら何もできないというこれまでの前例が、「結婚しない、子供を持たない女性」を生み出している。委員会ではこの根の深い問題をどう解決するのか。安易な覚悟では、さしたる結果は出ないのではないか。
5	1.日本における女性スポーツの地位向上は、最近めざましく躍進していると思うが、女性もできるだけ長くスポーツが続けられるような環境を整え、便宜をはかるようサポートしてほしい。 2.「女性スポーツ委員会」の今後の活動に期待することは、もっと一般のスポーツをする女性達に広報し、参加を呼びかけてほしい。3.JOCにおける女性の会長、もしくは副会長にぜひ「女性スポーツ委員会」より選出希望。
6	現在スポーツは、男性社会となっている。特に指導者層に女性が少なく、女性の立場からのスポーツのあり方が問われている。当協会も、やっと女性委員会が立ち上がり、当競技社会を豊かにしていく施策を取っていく予定です。各スポーツ団体は、横とも連携をとって、女性スポーツの向上に向けて進んでいく必要がある。
7	当連盟の競技は、普及振興の歴史的経過から、学校体育・スポーツによるところが大であり、当初から女性の愛好者が多く、特に組織的に女性をとの意識的な経緯もない。競技会も男女同数、ほぼ一緒に開催され、国際大会でも混合ダブルスの種別が設置されている状況である。
8	当協会では、女性人口比48.44%(男性:51.55%)と拮抗してまいりました。今後ともよろしくご指導ください。
9	現場サイドの女性の指導者等の意見を十分に聴いてもらいたい。
10	委員会の活動内容や他団体の動向をご報告いただければありがたい。
11	オリンピックへの種目入り、団体への女子競技者の参加を目指す当連盟では、競技人口を増やすことが当面の課題であり、そのためにも女子競技者の普及発展を期待している。
12	各団体の中に女性役員・指導者の養成に関する施策を希望。女性の活動には、それなりの費用(予算)を取っていただかないとなかなか動かしにくい(交通費など)。*男性は多少の経費はボランティア感覚で活動してもらえらる。
13	他団体における問題、課題等の解決策を学べるようなフォーラム等を開催していただきたいと思う。